



**復興への想いをこめた
いちごものがたり**

3月11日の東日本大震災によって、多くの尊い命とライフラインを失った山元町。急務となつたのは、人びとの心のケアと居場所づくりでした。そこで、スタッフ、ボランティア、地域の人びとが施設の再開に尽力。震災から2カ月後には、メンバーたちが施設に戻つてきました。しかし、震災によつて町が一変してしまつた状況下、以前のような下請け作業はありません。また、メンバーや家族、地域の人びとの心のケアもひきつづき求められていました。そこで、エイブルアート・カンパニーと協力し、アートによる「生きる力の取り戻し」と「仕事の復興」をめざしたプロジェクトをスタートしたのです。

再開当初、ハード・ソフト

ともに課題が山積みだつた地球村ですが、「とにかく大好きな山元町を元気にしていこう強い想いとエネルギーを感じました」とエイブルアート・カンパニーと支援を実施したデザイン家の前川亜希子さんは当時を振り返ります。そこで、町のシンボルをテーマにアートワークショップを実施。メンバーの描いたイラストをブランド開発にいかすことにしました。

そうして誕生したいちごものがたりは、メンバーの描いた山元町の特産品いちごをモチーフとしたブランド。思わず人に手渡したくなるかわいらしいデザインが好評をよび、ヒット商品に。さらに、震災以前から手がけていたバスボム（入浴剤）のかたちやパッケージを一新するなど、デザ



case.1 | 工房地球村（宮城県山元町）



福島県と宮城県の県境に位置する、人口1万人あまりの小さな町、宮城県亘理郡山元町。ここに、食品・雑貨製造事業、コミュニケーション事業所・工房地球村（以下、地球村）があります。正式名称は山元町共同作業所。障害のあるメンバー約40人が通所しています。彼らの自立と社会参加をめざした作業を行う居場所としてはもちろん、地域の人びとの憩いの場として、また、全国へ山元町の魅力を発信する拠点として運営されています。

地域を元氣にする 仕事づくり